

皆様にはお変わりなく益々ご活躍の事と拝察致します。

遅ればせながら本年もどうぞよろしくお願い致します。

今年一年、皆様と和やかに御刀を鑑賞してまいりましょう。

(1) 新春名刀鑑賞会を開催 (1 月 20 日)

塩竈神社大講堂にて今年初の定例鑑賞会を開催！



参加者は総勢 28 名。

寒いなかお集り頂きました。

鈴木会長と高山武士先生より年頭挨拶を頂き、

今回は 5 口の御刀を鑑賞致しました。

今回も唸るほどの名刀揃い。

講師の高山武士先生からも解説の際に

「今年は御刀が作られた時代をしっかりと見極められるように頑張りましょう」と叱咤激励を頂きました。

ぜひこの一年を通して身に着けていきたいものです。

鑑賞刀の詳細は次項のレポートをご覧ください。

※平成 30 年度の本部支部会費の納入時期になりました※

納入を済まされていない方は [\(5\) 平成 30 年度本部支部会費納入のお知らせ](#)をご覧ください。

(2) 鑑賞刀レポート

鑑賞会で出展された御刀のレポートです。

【一号刀】太刀 雲次^{うんじ} 二尺二寸程 鎌倉末期 備前

細 身で元先に開きがあり平安末期頃の姿にも似ている太刀ですが、山城物の様な輪反りになっている所はこの流派の特徴。

地鉄^{じがね}は小板目^{じぶ}が積み地斑映りが立つ、映りはハバキ上の部分が一番暗帯が明瞭になっていて上の方は見えづらく感じる。刃文は下半は小模様な互の目に足が入り、上半は直刃調に浅くのたれていて帽子は直ぐにやや大き目に丸く返っている。

地鉄^{じがね}が良かった所と地斑映りがある点から古備前の正恒に入札しましたが、姿や帽子を総合して見ると雲類^{うんるい}の特徴がでている刀だと思えます。

雲類は鵜飼派や宇甘派とも呼ばれていて同時代の長船派とはまた違った魅力のある刀で、地理的にも吉井川周辺で作刀していた他の流派とは違い少し離れた宇甘川の近くで作刀していたようです。

(國上涼 記)

【二号刀】太刀 銘「恒光」 二尺程 平安末期 備前

高 造、庵棟、身幅尋常、磨上げながらも腰反りが深く、中鋒。

鎬 地鉄は小板目よくつみ杓目交じり、地沸よくつく魅力的な御刀。

研ぎ減りで重ね薄く、樋は幅広で彫り深く搔き通し片チリ。樋先肩いかる（鋭角な三角形の形状）、搔き通す。よって実際手に取ってみると見た目よりも重さが感じられない。

刃文の焼幅は中程、丁子乱れは丁子足が長く伸び、丁子ひとつひとつがとても細い。その刃文に呼応するかのよう鮮明な映りは鎬地に達するほどの幅があり、透明感が美しい。帽子は丸く浅く返る。

物打辺りが二重刃のようにも見える。

茎磨上げ、刃上がり栗尻、鑢目勝手下がり、目釘孔三、佩表に茎尻に近い第三孔の棟寄りに二字銘がある。

この御刀の特徴はなんといっても樋の幅広さと彫りの深さ。重ねの薄さに対して樋の力強さは全く衰えていない。

平安末期の樋も幅が広く彫りが深いものがあり、三池典太だけの特徴ではないことを理解しておく。

刃文については理屈抜きで「古色のあるいい刃」と感じるよう訓練することが大切（古色＝古備前または平安後期という意味）。この美しさから歴史上の錚々たる人物が所有したことが推して知るべし。

[佐々木所感]

個人的に「平安末期・鎌倉初期の御刀」のイメージと異なり、姿からはどこか儂げな優美さよりも、力強く覇気のある逞しさを感じました。

切先にも「伏さり」感がなく小鋒というよりも中鋒に見えたため、一の札は、逞しい姿と中鋒 → 鎌倉中期か末期 → 鮮明な映りがある！ → 「鎌倉中期、備前」で入札。風情は合っていたものの、時代で「×」の判定。

二の札は、鎌倉時代より下らない姿だ → 姿・映りの鮮明さを考慮すると末期ではない → 鎌倉初期で入札。かなり消極的な判断でしたが「当り」の判定を頂きました。

今でも十分な逞しさを感じられるのに、高山先生の解説によれば経年による研ぎ減りがあるとのことで、当時の弾けんばかりの逞しい姿を想像してみますと、こ、こんな逞しい平安末期の御刀があるのか…！

「儂げで優美」なイメージから判断するのではなく、姿形を目で見ても確かめた上で時代を判断できるようになりたいと思いました。正恒の子または弟子ともいわれている恒光…正恒は東北地方から備前へ連れてこられた有正の子という説もあり、恒光も東北人の末裔だったのだろうか…想像力が駆り立てられます…銘鑑を調べただけでも恒光が 5 人。そのうち時代的に心当たりがある恒光だけでも 3 人。私が探している恒光は誰…。

正恒派の系図を探してみたいと思います！

(佐々木理恵 記)

【三号刀】脇差 銘

表) 備前国住長船忠光彦兵衛尉お作州和介庄作之

裏) 年紀 延徳^{よねん}二二年霜月吉日

一尺八寸程 室町末期 備前

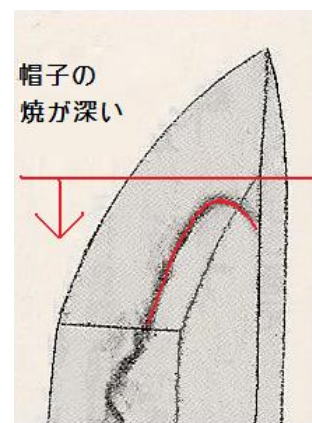
鎗 造り、庵棟、先反りつき、中鋒。地鉄は小板目よかつみ、淡く映り立つ。
刃文は、中直刃、匂口明るく冴え、砂流しかかる。帽子、焼深く小丸に返る。
彫物、表裏に棒樋搔き流す。

本作は二尺に満たない寸の詰まった体配に、先反りがつき、帽子の焼が深く、淡く映りが立つことなどから末備前でも室町後期の末まで行かないものであると鑑せられます。地鉄の精美な鍛えに中直刃が映える印象が強いですが、その特色が末備前随一と称されるのが彦兵衛忠光です。

他には乱れ刃などもあり、彫技も巧みな刀工です。

茎は片手打ちに使用するために短めで、片手打ちの典型となっています。

[右図 (例) 帽子の焼が深く末物の特徴]



長船彦兵衛忠光は、五郎左衛門尉則光の子といわれ、
右京亮勝光・左京進宗光・彦兵衛尉祐定と並ぶ末備前を代表する刀工です。
俗名を冠する忠光銘では彦兵衛・彦兵衛尉・修理亮・九郎左衛門尉などがあります。
(今野利幸 記)

【四号刀】脇差 銘 兼先^{かねさき} 一尺八寸程 室町末期 美濃

鎗 造、庵棟、重 7 mm程、先反り付き室町末期の片手打ちの姿。棒樋に添え樋の搔き通し。
小板目詰みやや流れる地鉄、鎗際薄く白け映りか。
匂い出来、頭と谷が同形の互の目丁子が顕著なら迷わず「兼房乱れ」だがやや互の目的な形で迷う。
帽子は迷わず地藏帽子と見る。

一の札 兼房 同然

二年前にも経眼していた。同じ兼房で入札している。

(三浦弘貴 記)

【五号刀】脇差 銘 備州長船盛光/応永 卅 年十月 一尺五寸程 応永備前

鎧 造、庵棟、重ね薄く身幅も狭いかなり細身で短い。反りやや深く先反り付く。棒樋片チリ、
添樋そえひもはばき鉋上で丸止め片手打ちの姿。板目詰んだ中に薄っすら杳目もくめ混じりの綺麗な地鉄。乱れ映り。
腰は開いてるが角度が急で 4 号刀の互の目丁子?にも似た刃文。
蟹の爪? 複式互の目? の割れそうにも見えなくもない中に足葉入る。互の目先は匂いで煙り、帽子も乱れ込み、先煙り込むろうそく帽子。

一の札 清光 能く

二の札 勝光～清光に変わらない末備前物での入札間違い。

まだ時代鑑定の要点を入札に於いて理解が浅い証拠。

長船正系でもう一度とのご指摘。3号刀(直刃)、4号刀、5号刀の三振り姿がほぼ相似、4、5号刀の互の目、ほぼ同形もあり時代を上げられなかった。

地肌の良さを感じている時点で刃の良さにも気が付くべきですが今後の課題。

ろうそく帽子は兼光によくあるという事は理解してましたが盛光、康光にもあるという事。

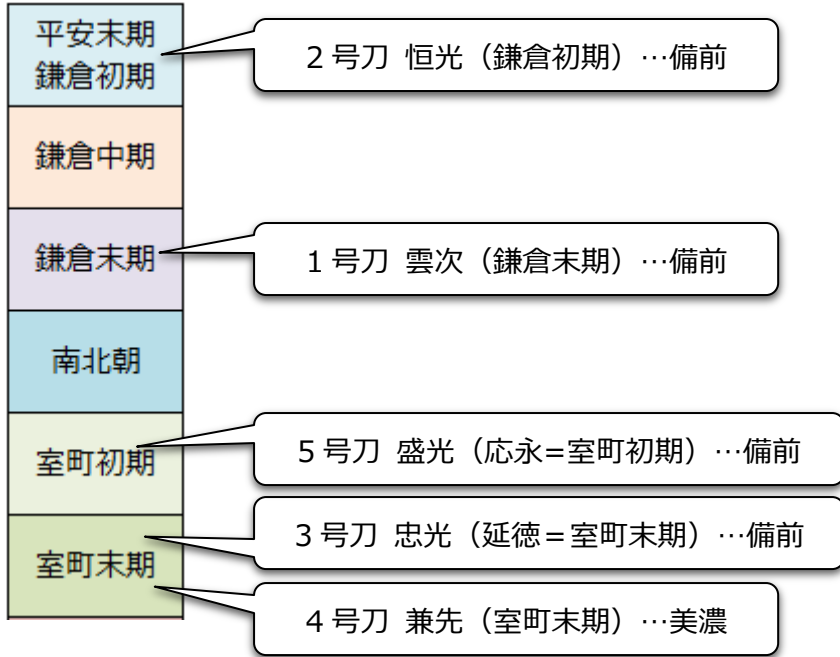
今回匂いの煙り加減に時代性を勉強できました。

特に反省は「能く」以後の入札に進展がなかった事、時間配分含め考え方感覚の要改善でした。

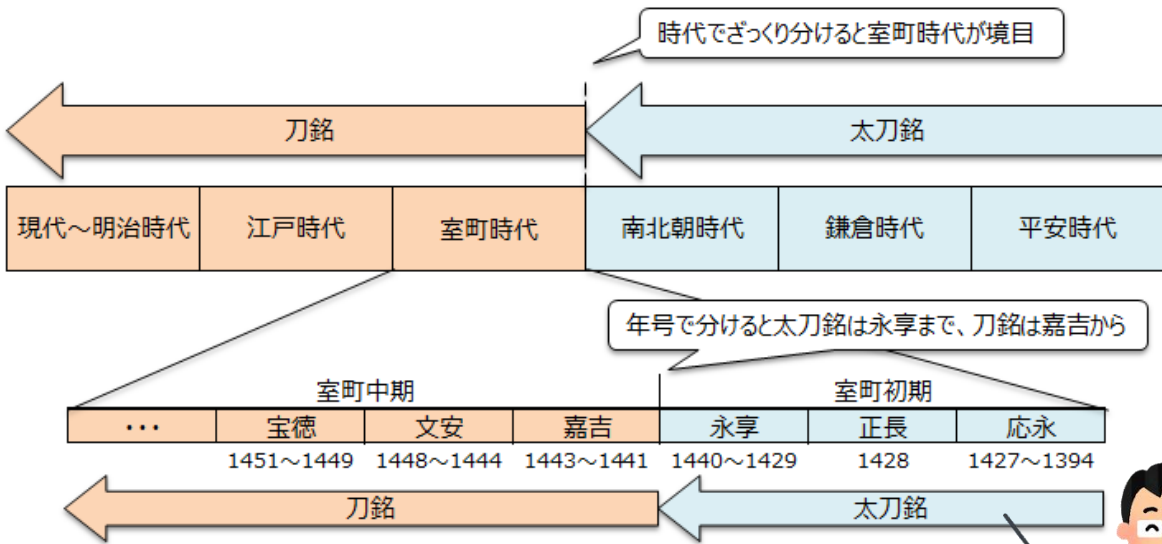
(三浦弘貴 記)

鑑賞刀レポートの補足

◆鑑賞刀の時代区分



◆判者 高山武士先生のひとくちメモ…太刀銘から刀銘に変わる年号について



☆☆☆鑑賞刀レポートを執筆してみませんか？☆☆☆

鑑賞会で拝見した御刀について講評して下さる会員さんを募集します。鑑賞刀の復習にも役立ちます。

会員歴や愛刀家歴、行事への出席率は一切問いません。

講評する鑑賞刀の口数は任意、レポートも一言だけでも構いません。

「ちょっとやってみようかな？」と思ったら今です！執筆してみたい方はお気軽に広報チームまでご連絡ください。

(3) 日本刀鍛錬技術シンポジウムが開催されました (2月3日)

多賀城市にある東北歴史博物館にて、宮城県教育庁文化財保護課主催による

「日本刀鍛錬技術シンポジウム」が開催されました。

会場はほぼ満席という盛況ぶりで、前半は昨年撮影された VTR「日本刀鍛錬技術」が上映、

後半は文化財保護課の司会によるパネラー4名（鈴木会長、宮城典真^{のりざね}刀匠、若柳梅京様、茂木学芸員）が各自思い思いに日本刀が文化にもたらしたものの、良き文化を次世代に託したい願いなどをお話くださり、宮城刀匠は VTR の感想の他、職人として目指していることなど穏やかながら熱くお話くださいました。

なみに同会場の展示室では法華三郎信房刀匠、宮城刀匠、永重、兼次・国包の塩竈神社への奉納刀が3月11日まで展示されています。

((4) 行事のおしらせ参照)

本シンポジウムの楽しい様子は公式サイトにて今後くわしくお伝え致します！お楽しみに♪



(4) 行事のお知らせ

新・刀剣博物館も竣工！宮城県内外の催事をご一緒に盛り上げていきましょう。
本誌をご覧の皆様のご参加・ご来場お待ちしております！

予定日	行事
1月19日(金) ～3月25日(日) 【開催中！】	現代刀職展 -今に伝わる「いこしえの技」- 【主催・会場】刀剣博物館 (開館時間と入館料は公式サイトでご確認ください) 【公式サイト】 https://www.touken.or.jp/museum/ 【主な内容】リニューアルオープンした博物館にて平成 29 年の「新作名刀展」・「刀剣研磨・外装技術発表会」に出展された御品が揃います。 職人さん方の漲る力を感じる展示会です！
1月31日(水) ～3月11日(日) 【開催中！】	仙台藩の工芸 – 刀剣と甲冑 – 【主催・会場】東北歴史博物館 (開館時間と入館料は公式サイトでご確認ください) 【公式サイト】 http://www.thm.pref.miyagi.jp/exhibition/detail.php?data_id=991 【主な内容】仙台藩内で製作・所用された刀剣・甲冑類を中心に展示。 法華刀匠、宮城刀匠の御刀の他、永重・兼次・国包が展示されています。
2月3日(土) ～ 【開催中！】	秋保温泉 岩沼屋 先祖伝来の御刀展示 【主催・会場】仙台 秋保温泉 岩沼屋 (営業時間は公式サイトでご確認ください) 【公式サイト】 https://www.iwanumaya.co.jp 【主な内容】400年以上前に先祖が護身用として携帯していた御刀と拵えが発見され、修復を経て一般公開を開始しました。 当時は垣間見れる貴重な機会です。ぜひご覧ください。
3月17日(土) ～25日(日) 【確定】	刀師 犬塚恒之 追慕刀剣展 【主催】日本春霞刀剣会 【会場】中央区立産業会館 (東京都中央区東日本橋 2-22-4) (開館時間は公式サイトでご確認ください)

【公式サイト】<https://syunka-lmt.jimdo.com>

【主な内容】支部会員の熊谷和平氏が主体となり開催される展示会です。

平成 27 年にご逝去された日本刀春霞刀剣会々長 犬塚恒之氏を偲び開催される刀剣展となります。虎徹、清麿、長光、盛光、兼定、兼元他、春霞刀剣会ゆかりの厳選刀 40 口を展示いたします。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

(ちなみに公式サイトは佐々木が期間限定で運営してます)

(5) 平成 30 年度本部支部会費納入のお知らせ

平成 30 年度本部支部会費の納入時期になりました。

納入金額、振込先、期限は下記の通りとなります。お早めをお願いいたします。

納入金額

- 本部支部会員の方：17,000 円 (本部会費 12,000 円 (※) + 支部会費 5,000 円)
- 支部会員のみの方：5,000 円

(※) 刀剣美術誌購読のほか特典あります

振込先

七十七銀行塩釜支店 普通口座 5 7 1 2 4 4 1

宮城県美術刀剣保存協会 事務局会計 後藤三夫

(今野利幸さんが会計担当ですが名義変更の手続きはしておりませんのであしからず)

納入期限

本部への送金が 3 月 20 日頃までですので、未納の方はお早めをお願いいたします

※お願い※ 本部へ入会を希望される方へ

事務局が事務代行をおこなっておりますので、入会手続きは事務局までご連絡ください。

(6) 会員通信

今年もよろしくお祈いします…といっているうちに 2 月になっちゃいましたね！

本ニュースの編集・配信・お菓子係の佐々木です(´・ω・`)ナリッ

今号は鑑賞会レポートの書式がパワーアップしました！

以前の一人がすべての鑑賞刀のレポートを受け持つ一極集中型から、一人が一口レポートを受け持つ負担分散型へ切り替えてからというもの、他の事を検討する余裕も生まれまして。互いの勉強のため改善できることはないか…とレポート担当者全員で模索した結果、生まれたものです(^-^)

今後は作刀地域を日本地図で表現してみたいなあと考えています。理想を言えば、五畿七道ごとに色分けされていると解り易そうですね。…画像編集ももう少し勉強してみたいです。

話が逸れましたが、今回もレポートに挑戦！毎回、文章を書くことに精一杯ですが…コレが結構楽しいのです！。レポート担当者同士で疑問点を出し合って調べあったり、他の方のレポートを拝見したり。

気づきも多く自分の視野が広がるような感じがします。

そしてなんてったって毎回、担当者から届くレポート、私が読者第一号なのです…編集係ゆえの特権♪♪

最近の広報チーム。話し合うところはしっかり話し合いつつ、時には冗談も言って爆笑してみたり。

御縁あって同じ時代にお会い出来た刀友ですので、切磋琢磨しながら末永くお付き合いできたらいいなあと願っております。

寒さももう少しだけ続きそうですが、体調に気をつけて元気に参りましょうっ。

以上、会員通信でしたっ(^^)ノ

<宮刀保の活動はコチラでチェックできます 周囲の方にお知らせください>

ホームページ : <https://www.miyagiokatana.com/>

Facebook : <https://ja-jp.facebook.com/MiyagiOkatana/>

Twitter : @OkatanaMiyagi

<ご意見・投稿の連絡先>

会員の皆様からの投稿お待ちしております(飛び入り大歓迎！)

本ニュースの配信先の変更、配信を希望されない方は下記へご一報お願いします

宮城県美術刀剣保存協会

●塩竈神社博物館内 E-Mail : okatana-pref.miyagi@piano.ocn.ne.jp

鑑定会ニュース編集係 事務局 佐々木

●E-Mail : apfel_torte@nifty.com